

I 2015 年度 大学評価委員会の評価結果への対応

<p><b>【2015 年度大学評価結果総評】</b></p> <p>・該当なし</p>
<p><b>【2015 年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】</b> (～400 字程度まで)</p> <p>・該当なし</p>

II 自己点検・評価

1 教員・教員組織

**【2016 年 5 月時点の点検・評価】**

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 学部等として求める教員像および教員組織の編制方針を明確にしているか。	
①組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p><b>【SSI 執行部の構成、基幹委員会の名称・役割、責任体制】</b> ※箇条書きで記入。</p> <p>・法政大学スポーツ・サイエンス・インスティテュート運営委員会規程に則って、運営委員会を構成し、執行部を構成している。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・法政大学スポーツ・サイエンス・インスティテュート運営委員会規程</p>	
1.2 教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。	
①学部（学科）等のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>(～400 字程度まで) ※SSI が提供するカリキュラムとの整合性等の観点から教員組織の概要を記入。</p> <p>SSI は学部横断的な仕組みである。そして、各学部より選出された、各学部のカリキュラムに精通した運営委員で構成される運営委員会によって、運営されている。執行部は、定例の執行部会議を毎月開催するだけでなく、必要に応じて臨時の執行部会議を開催し、運営委員会を主導している。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・法政大学スポーツ・サイエンス・インスティテュート運営委員会規程</p>	
1.3 教員の資質向上を図るための方策を講じているか。	
①学部（学科）等内の F D 活動は適切に行なわれていますか。	A <input type="checkbox"/> B <input checked="" type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/>
<p><b>【FD 活動を行うための体制】</b> ※箇条書きで記入。</p> <p>・全ての SSI 主催科目のシラバスを執行部がチェックしている。改善すべき点が見つかった場合は、授業担当教員に対して個別に指摘を行っている。</p> <p><b>【2015 年度の F D 活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】</b> ※箇条書きで記入。</p> <p>・各教員は、各学部において行われている F D 活動に参加し、必要に応じて、運営委員会においてフィードバックを行っている。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・SSI 科目シラバス原稿作成の手引き</p> <p>・法政大学シラバス WEB 入稿管理システム教員向け入稿ガイド（全学部・大学院共通）</p> <p>・市ヶ谷 SSI シラバスに関する疑義・指摘</p> <p>・多摩 SSI シラバスに関する疑義・指摘</p>	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・SSIにおいて、より幅広い教育内容を提供するために、本学スポーツ健康学部に対して、SSIとの連携強化を呼びかける。具体的には、SSI主催科目の授業担当や、スポーツ健康学部の科目をSSIに公開することを検討するよう依頼する。2016年度において、SSIの授業を担当しているスポーツ健康学部の専任教員は、17名中3名にとどまっている。また、スポーツ健康学部の授業で、SSI生に公開されている授業は存在しない。

・SSIでは、その性質上、アドミッションポリシーやディプロマポリシーを作成することはできないが、カリキュラムポリシーを策定することは可能であると考えられる。そこで、今年度は、SSIのカリキュラムポリシーを策定する。

**【この基準の大学評価】**

スポーツ・サイエンス・インスティテュート（以下、SSI）は、スポーツ文化を担う学生を育てる学部横断的な教育プログラムであり、各学部より選出された教員で構成される執行部と運営委員会により運営が行われている。また、SSIには10学部が参加しているため、各学部のカリキュラムに応じた内容の検討にはSSIと学部のより深い連携が必要である。

FD活動については、各教員が所属学部のFD活動に参加し、運営委員会へフィードバックを行っている。さらに、年度末に実施するSSI主催科目担当教員（専任・兼任）による懇談会や卒業を控えた4年生を対象とした「SSI卒業予定者向けアンケート」など、SSI独自の取り組みも行われている。

**2 教育課程・教育内容**

**【2016年5月時点の点検・評価】**

(1) 点検・評価項目における現状

2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。	
①学生の能力育成のための教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
<p>(～400字程度まで) ※学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。</p> <p>限られた総コマ数の中で、SSI生に対して幅広い教育内容に触れる機会を提供するために、2015年度から、I・IIと2コマ分開講していた複数の科目について、教育内容を整理・集約することで、科目を1つに集約した(例「スポーツ方法論I・II」を「スポーツ方法論」に)。そのことによって、戦略的に総コマ数のゆとりを作った。そして、1)市ヶ谷キャンパスで開講しているSSI主催科目を(市ヶ谷キャンパスに比べると開講科目数が少ない)多摩キャンパスでも開講する、2)「スポーツ情報戦略論」など最新のスポーツ科学の知見に基づいた科目を開講するという、2つの展開を行っている。</p> <p>なお従来、文学部の心理学科を除く5学科のSSI生は、入学直後に卒業論文の単位を履修するかを判断しなければならなかった。しかし、文学部SSI運営委員の要請によって、2015年度より、上級学年になってからその判断を行えるように、文学部5学科のSSIコースのカリキュラムが変更となった。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SSI履修要綱・講義概要(シラバス)</li> </ul>	
②初年次教育、キャリア教育は適切に提供されていますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
<p>(～400字程度まで) ※学生に提供されている初年次教育、キャリア教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。</p> <p>SSIの学生は、各学部にも所属しているため、各学部で行われている初年次教育やキャリア教育に参加している。SSIにおいては、SSI基礎科目として開講されている7つの必修科目や、「スポーツ学入門」などが、初年次教育の役割を果たしている。キャリア教育としては、「アスリートキャリア論」や「アスリートのキャリアマネジメント」などを開講している。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SSI履修要綱・講義概要(シラバス)</li> </ul>	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (必須項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

- ・2017年度からのILACのカリキュラム改革に伴い、各学部に対して、SSI卒業所要単位変更の要求を行う。
- ・「アメリカンフットボール部」「サッカー部」「水泳部」「テニス部」「バレーボール部」「ラグビー部」「陸上競技部」「バドミントン部」の8部に所属するSSI生に対しては、SSI主催科目として「スポーツ実習」を開講し、部活動と連動した単位認定の仕組みを整えている。しかし、他の部に所属するSSI生については、そのような仕組みが存在しない。そこで今年度は、この実習科目の見直しについて、運営委員会において意見交換を行う。運営委員会で具体的な提案がなされ、その提案が運営委員会で承認された場合は、その提案にしたがってSSIのカリキュラム改定を行う。
- ・SSI生が卒業するためには、最低でもSSI科目を44単位履修する必要がある。44単位という単位数に鑑みると、SSIで開講している科目の数はきわめて限定的である。そこで、SSI生が履修できる科目数を増加させるために、各学部の学部主催科目をSSI専門科目として公開してもらえよう、各学部に対して働きかける。なお、2016年度に各学部で主催している科目のうち、SSI専門科目としてSSIに公開されている科目は、市ヶ谷キャンパス40科目(春学期科目22科目、秋学期科目17科目、年間科目1科目)、多摩キャンパス60科目(春学期科目29科目、秋学期科目31科目)である。一方SSIでは、SSIコースに所属していない学生に公開している科目も複数存在する(例「アスリートキャリア論」)。

**【この基準の大学評価】**

SSIでは、2015年度より2コマ分割していた科目をひとつの科目に集約を行い、教育内容を整理する一方で、市ヶ谷キャンパス開講科目の多摩キャンパスへの展開、最新のスポーツ科学の知見に基づいた科目開講などの取り組みが行われており、学生の能力育成のための教育が提供されていると評価できる。ただし、多くの学部、2つのキャンパスに所属するSSI学生の特長性を考慮し、より集中して学習できるよう、さらなる工夫を望みたい。

初年次教育・キャリア教育については、所属学部などにおける科目履修により行われている。また、SSIにおいても独自に初年次教育の役割を果たす基礎科目の提供やキャリア教育科目が提供されている。

**3 教育方法**

**【2016年5月時点の点検・評価】**

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 能力育成の観点から教育方法および学習指導は適切か。	
①学生の履修指導を適切に行っていますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
<p><b>【履修指導の体制および方法】</b> ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学入学前の3月末に、SSI新入生全員を招集し、SSIガイダンスを行っている。</li> <li>・年度当初に各学部で開催される学部ガイダンスでは、ほとんどの学部のガイダンスにおいて、SSIに関する説明を行っている。文学部のように、SSIに特化したガイダンスを学部独自で別途開催している学部もある。</li> </ul> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新入生のSSIガイダンスへの参加について(お願い)</li> <li>・SSIガイダンスの開催について(ご案内)</li> <li>・2016文学部スポーツ推薦入学者ガイダンス配付資料</li> </ul>	
②学生の学習指導を適切に行っていますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
<p>(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p> <p>3月末に行っているSSIガイダンスにおいて、市ヶ谷・多摩キャンパスから複数の教員が出席し、履修の際の助言を行ったり、授業への出席を強く促したりするなど、修学上の注意事項を説明している。</p> <p>SSIの学生は、授業実施日に公式戦が開催されることが多いため、授業を欠席せざるを得ないことがある。その際は、大学の公式書類である「競技参加による欠席願」を授業担当教員に提出するよう指導している。</p> <p>授業担当教員は、当該学生の教育機会を保障するために、授業支援システムを利用した資料配布や課題の設定などを行っている。授業支援システムを活用できるようにするために、市ヶ谷・多摩キャンパスで開講されている必修科目(スポーツ心理学)において、独自の資料を作成して、授業支援システムの使い方を解説している。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各授業の授業支援システムのホームページ</li> </ul>	
③学生の学習時間(予習・復習)を確保するための方策を行なっていますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
<p>(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p> <p>授業支援システムを活用できるようにするために、市ヶ谷・多摩キャンパスで開講されている必修科目(スポーツ心理</p>	

<p>学)において、独自の資料を作成して、授業支援システムの使い方を解説している。また、授業支援システム(今年度より導入されたOATube)を利用して、授業を欠席した学生や復習を行いたい学生に対して、動画を提供する授業が行われている。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。          ・各授業の授業支援システムのホームページ</p>	
④教育上の目的を達成するため、新たな授業形態の導入に取り組んでいますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
<p><b>【具体的な科目名および授業形態・内容等】</b> ※箇条書きで記入(取組例:PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等)。</p> <p>・いくつかの授業では、「ワールドカフェ」や「クロスロード」などのアクティブラーニングを採用している。</p> <p>・授業支援システム(今年度より導入されたOATube)を利用して、授業を欠席した学生や復習を行いたい学生に対して、動画を提供する授業が行われている。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。          ・各授業の授業支援システムのホームページ</p>	
3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。	
①シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<p><b>【検証体制および方法】</b> ※箇条書きで記入(取組例:執行部(〇〇委員会)による全シラバスチェック等)。</p> <p>・全てのSSI主催科目のシラバスを執行部がチェックしている。改善すべき点が見つかった場合は、授業担当教員に対して個別に指摘を行っている。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。          ・SSI科目シラバス原稿作成の手引き          ・法政大学シラバスWEB入稿管理システム教員向け入稿ガイド(全学部・大学院共通)          ・市ヶ谷SSIシラバスに関する疑義・指摘          ・多摩SSIシラバスに関する疑義・指摘</p>	
②授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<p><b>【検証体制および方法】</b> ※箇条書きで記入(取組例:後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等)。</p> <p>・年度末において、SSI主催科目担当教員(専任・兼任)による懇談会を開催している。</p> <p>・卒業を間近に控えた4年生を対象に、「SSI卒業予定者向けアンケート」を実施している。このアンケートの回収率は非常に高く、2015年度は、対象者198名中169名のデータを回収している(回収率84.8%)。このアンケート内で、SSI主催科目に関するアンケートを行い、各授業の内容に関する具体的な回答を得ている。アンケート結果は執行部で集約し、運営委員会において、運営委員に対してフィードバックを行い、意見交換を行っている。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。          ・SSI卒業予定者向けアンケート集計結果</p>	
3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
<p><b>【確認体制および方法】</b> ※箇条書きで記入。</p> <p>・運営委員会において、全学およびSSIのGPCA平均集計表を配布している。</p> <p>・運営委員会において、成績評価方法に関する意見交換を行っている。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。          ・GPCA平均集計表(全学とSSI)</p>	
3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。	
①組織的な教育成果の検証を定期的に行っていますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
<p><b>【検証体制および方法】</b> ※箇条書きで記入。</p> <p>・執行部が招集したSSIカリキュラム委員会において、カリキュラム編成や授業担当者に関する意見交換を行っている。</p> <p>・年度末において、SSI主催科目担当教員(専任・兼任)による懇談会を開催している。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。          ・特になし</p>	
②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
<p><b>【利用方法】</b> ※箇条書きで記入。</p>	

・シラバスの「学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき」の欄を記入するよう、各教員に促している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・各授業のシラバス

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等（必須項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

- ・SSI ガイダンスに出席するように、毎年 3 月に開催される部長・監督会において注意喚起をしている。2016 年度の出席状況は 215 名中 177 名であった（出席率 82.3%）が、出席者のいない部が 3 部あった（ラグビー部、弓道部、馬術部）。そこで、この 3 部についてはとくに、新入生の出席を促すよう強く要請する。
- ・SSI コースを開設している全ての学部に対して、学部内で SSI に関するオリエンテーションやガイダンスを行うよう働きかける。

【この基準の大学評価】

SSI の学生は、10 学部、2 キャンパスそれぞれに所属し、文系・理系と非常に多様化しているため、履修指導・学習指導と学習時間の確保に関するモニタリングの必要があると思われる。一般学生よりも学習時間が少ない環境において、いかに集中して短時間で学習効果をあげるか、試合などで欠席したときにどのように補うのかについて、管理するシステムが必要であると思われるが、新たに導入している「授業支援システム (OATube)」の利用状況をみて、改良が必要な点などがあれば、より良い管理システムの確立に向け努力する必要がある。

成績評価と単位認定については、運営委員会における GPCA データの共有、意見交換により適切性の確認が行われている。教育成果の検証については、カリキュラム委員会での意見交換、SSI 主催科目担当教員による懇談会により行われている。

また、授業改善アンケート結果はシラバスに反映するように各教員に促されている。独自に行われている「SSI 卒業予定者向けアンケート」については回収率も高いので、よりきめ細かな検討を行い、教育にフィードバックする努力が望まれる。

4 成果

【2016 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。

① 学生の学習成果を測定していますか。

A  B C

(～400 字程度まで) ※取り組みの概要を記入（習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等）。

卒業を間近に控えた 4 年生を対象に、「SSI 卒業予定者向けアンケート」を実施している。このアンケートの回収率は非常に高く、2015 年度は、対象者 198 名中 169 名のデータを回収している（回収率 84.8%）。このアンケート内で、SSI の授業に関するアンケートを行い、各授業の内容に関する具体的な回答を得ている。アンケート結果は執行部で集約し、運営委員会において、運営委員に対してフィードバックを行い、意見交換を行っている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・SSI 卒業予定者向けアンケート集計結果

②成績分布の状況を把握していますか。

はい いいえ

【データの把握主体・把握方法等】※箇条書きで記入。

- ・運営委員会において、全学および SSI の GPCA 平均集計表を配布している。
- ・運営委員会において、成績評価方法に関する意見交換を行っている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・GPCA 平均集計表（全学と SSI）

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (必須項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

・運営委員会において、SSI 卒業予定者向けアンケート集計結果を配布して、意見交換を行っているが、今後は各委員に対して、この集計結果を各学部で周知してもらえよう依頼する。
---

【この基準の大学評価】

SSI では学生の学習成果について、「SSI 卒業予定者向けアンケート」をもとに測定し、結果は運営委員会にフィードバックされている。しかし、アンケートだけでは十分に学習成果を測定してとは言えないので、他の指標の検討も望まれる。また、新たに導入している「授業支援システム (OATube)」の利用をさらに進め、総合的な学生の学習状況と成績情報を把握するシステムの確立にも努力の必要があろう。 成績分布の状況については、GPCA により把握されている。
---

5 内部質保証

【2016 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

5.1 内部質保証システム (質保証委員会等) を適切に機能させているか。	
① 質保証活動に関する各種委員会 (質保証委員会等) は適切に活動していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>【2015 年度における質保証活動に関する各種委員会の構成、活動概要等】※箇条書きで記入。</p> <p>・これまでに、質保証活動に関する委員会は設置していない。しかしこれは、SSI 運営委員会の規模が小さいためであり、委員全員が、質保証活動に携わっているということもできる。とりわけ、SSI 運営委員会には、各学部教授会から選出された専任教員 (1 号委員) だけでなく、SSI 授業の担当教員 (2 号委員) が属していることから、運営委員会内で、質保証活動に関する議論は十分に行っていると考えている。</p>	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

SSI では各学部から選出された教員で構成される運営委員会が、実質的に質保証の役割を担っている。今後も PDCA サイクルが機能するよう、質保証に関する議論を十分に行っていただきたい。
--

【大学評価総評】

SSI の学生の所属学部は、非常に多様なので、各学部の専門科目と SSI 科目を関連させた履修について、支援していく必要がある。また、各自のスポーツの鍛錬と所属学部の学習とのバランスをとりながら、スポーツと専門分野の知識の習得を共に行う必要もある。 そのため、「授業支援システム」の活用と、「SSI 卒業予定者向けアンケート」などの結果の分析について、SSI 執行部・運営委員会ですら十分に検討し、文武両道の学生を育成するのに相応しい方法・システムの構築を期待したい。
---